

2021年度 通期：2021年4月～2022年3月

決算説明資料

(ハイライト情報)

2022年4月28日

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。本資料において当社の将来の内容・業績を保証するものではありません。

蝶理株式会社

POINT

中期経営計画「Chori Innovation Plan 2022（CIP2022）」第2年度

- ・新たなステージ「経常利益100億円台」に到達、CIP2022進捗順調。
- ・期初予想値を確保、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高益を更新。
- ・連結事業充実。

業績概要

前期比大幅増収、各段階利益で大幅増益。

- 全セグメントで増収。化学品セグメントが牽引。
Cf. 経常利益ROA：8.4%（前期4.1%）、ROE（当期純利益）：11.0%（前期2.2%）

財務基盤

- 自己資本比率 48.5% 高水準を維持

株主還元

- 期末配当金は2021年5月11日公表通り。
▶ 期末配当42円／株 年間配当84円／株（配当性向30.3%）

トピックス

- 2022年4月4日東京証券取引所の新市場区分スタート。当社は「プライム市場」へ移行。上場子会社として、1) 独立社外役員の比率1/3以上を確保、2) ガバナンス委員会（独立社外取締役が過半数）を設置済み。
- 2022年4月基幹システム刷新のための全社業務変革プロジェクト始動。ERP導入により経営管理の高度化と生産性の向上を推進。

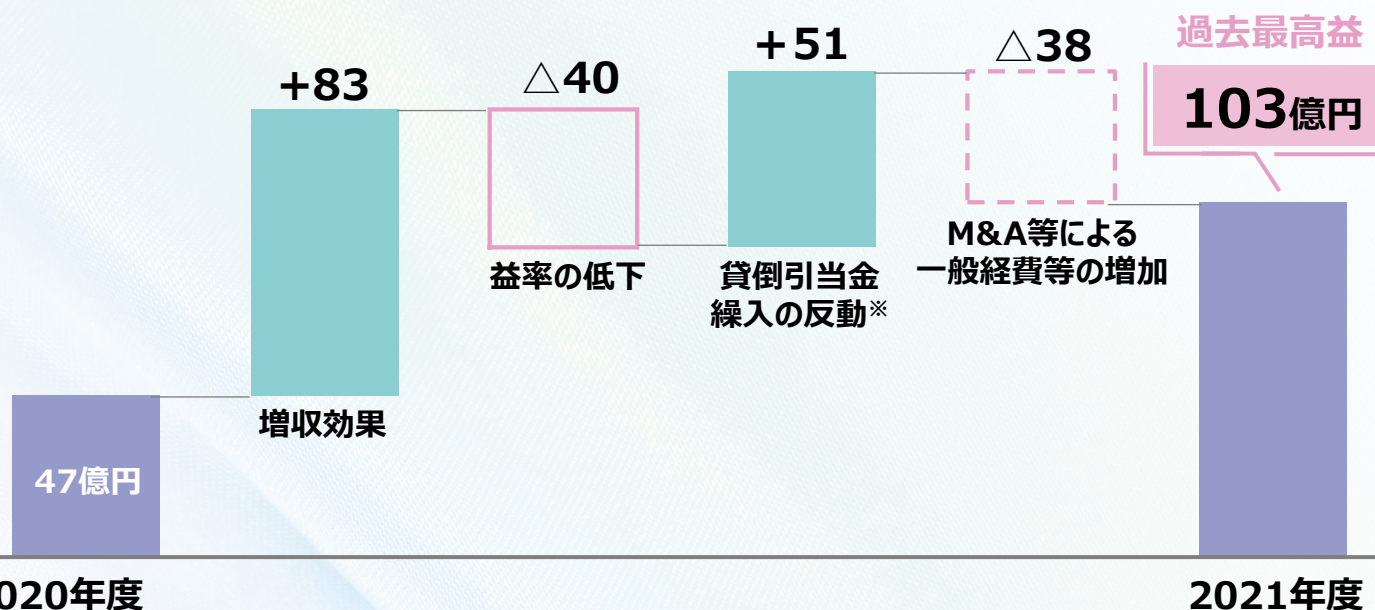
POINT

- 新型コロナウイルス感染症のまん延長期化、物流問題の発生等によりサプライチェーンが混乱し、国内・世界経済は終始不安定な情勢下で推移。国内では製造業に持ち直しの兆しが見られたが、個人消費は低迷。期末にかけ地政学リスクがクローズアップ。
- 売上高は化学品市況の回復等により大幅増収。増収効果に加え、前期に計上した貸倒引当金繰入額51億円（当期計上なし）の反動により、化学品セグメントを主に大幅増益。（中国債権問題は2020年度に全額引当処理済み）

	(単位：億円)	20年度	21年度	増減額	期初予想	達成率
売上高		2,162	2,841	+679	2,800	101.5%
売上総利益		264	307	+43		
販売費及び一般管理費		227	213	-14		
営業利益		37	93	+57	95	98.2%
経常利益		47	103	+56	100	102.7%
親会社株主に帰属する当期純利益		12	68	+56	68	100.2%

※20年度の販売費及び一般管理費には貸倒引当金繰入額51億円を計上しております。

経常利益の増減要因 (単位：億円)

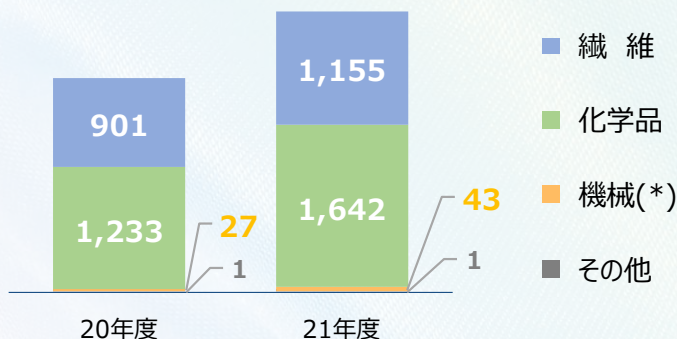


※20年度、中国化学品製造会社グループに対して、貸倒引当金繰入額51億円を計上

四半期 業績推移

	2020年度					2021年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間累計	1Q	2Q	3Q	4Q	年間累計
売上高	490	532	552	589	2,162	607	694	758	783	2,841
営業利益又は損失	-9	25	24	-3	37	26	23	26	20	93
経常利益又は損失	-7	25	25	3	47	29	24	29	21	103
(除く、貸倒引当金繰入額)	18	25	25	29	97					
親会社株主に帰属する当期純利益又は損失	-12	14	16	-6	12	23	17	19	10	68

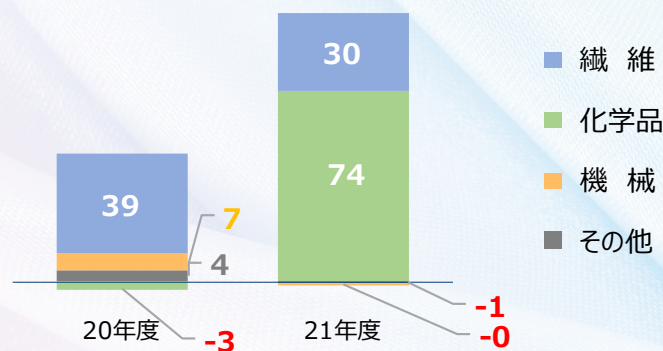
売上高



(単位：億円)	20年度	21年度	増減額
繊維	901	1,155	+254
化学品	1,233	1,642	+408
機械(*)	27	43	+16
その他	1	1	+0
合計	2,162	2,841	+679

*(参考) 取扱高 400億円

経常利益又は損失



(単位：億円)	20年度	21年度	増減額
繊維	39	30	-9
化学品	-3	74	+77
機械	7	-0	-7
その他	4	-1	-5
合計	47	103	+56

※「その他」には調整額を含んでおります。

繊維 増収減益

堅調 合繊原料・衛生材

低調 国内衣料関連

化学品 大幅増収大幅増益

堅調 全般

好調 有機・無機化学品
ファインケミカル

復調 電子材料

機械 増収・経常損失

堅調 車輛

損失 回収遅延債権に対する貸倒引当金計上

形態別売上高

POINT

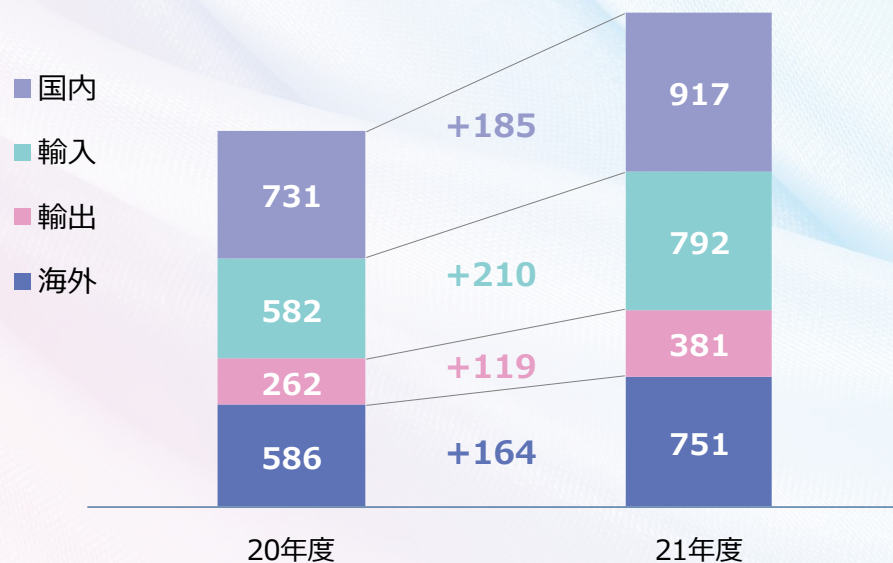
- 貿易比率：67.7%（前期比+1.5%）
- 国内売上高：繊維事業・化学品事業ともに増収
- 貿易取引：全セグメントにおいて増収

売上高 2,162
 貿易取引 1,431
 (貿易比率) 66.2%

売上高 2,841
 貿易取引 1,924
 (貿易比率) 67.7%

売上高 +679
 貿易取引 +493
 (貿易比率) +1.5%

(単位：億円)



国内売上高 日本国内仕入の日本国内への売上高

貿易取引

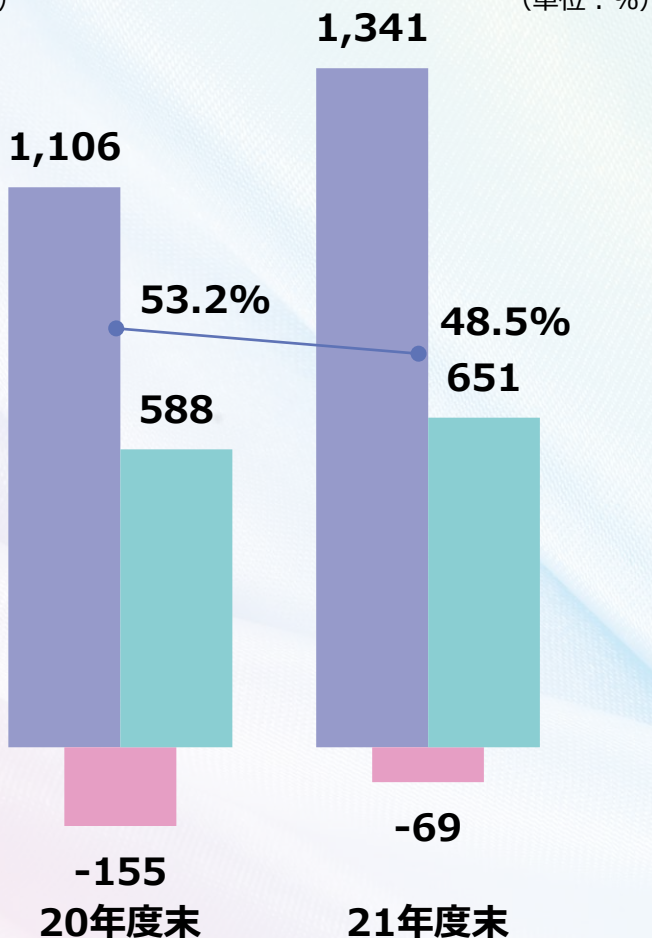
輸入売上高 海外から日本国内への売上高

輸出売上高 日本国内から海外への売上高

海外売上高 海外取引の売上高

■ 総資産 ■ ネット有利子負債 ■ 自己資本 ● 自己資本比率

(単位：億円)



財務健全性

(単位：億円)

	20年度末	21年度末	増減
総資産	1,106	1,341	+235
ネット有利子負債	-155	-69	+86
自己資本	588	651	+63
自己資本比率	53.2%	48.5%	-4.7%

収益性・資本効率

(単位：億円)

	20年度末	21年度末	増減
ROA (経常利益ベース)	4.1%	8.4%	+4.3%
ROA (当期純利益ベース)	1.1%	5.6%	+4.5%
ROE (当期純利益ベース)	2.2%	11.0%	+8.8%

キャッシュ・フローの状況

POINT

- 営業キャッシュ・フロー：売上債権・棚卸資産の増加等により、-23億円
- 財務キャッシュ・フロー：配当金の支払等により、-40億円

(単位：億円)

	20年度	21年度	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	59	-23	-82
投資活動によるキャッシュ・フロー	-4	2	+6
財務活動によるキャッシュ・フロー	-9	-40	-31
換算差額	-0	6	+6
キャッシュ・フロー合計	46	-56	-102
現金及び現金同等物の期末残高	176	120	-56

POINT

- 地政学リスクの増大、中国のゼロコロナ政策によりサプライチェーンの混乱は長期化、それらを背景に商品市況や為替の変動幅は拡大し、以前にも増し不透明、不確実。

- 中期経営計画「Chori Innovation Plan 2022」を着実に推進。

2022年度は中期経営計画の最終年度。

当初目標：売上高 2,800億円 経常利益 110億円 経常利益ROA 8%以上 当期純利益ROE 11%以上

業績予想：売上高 3,300億円 経常利益 120億円 経常利益ROA 9.0% 当期純利益ROE 12.0%

(単位：億円)	21年度実績	22年度予想	増減額	増減率
売上高	2,841	3,300	+459	+16.2%
営業利益	93	115	+22	+23.3%
経常利益	103	120	+17	+16.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	68	82	+14	+20.4%

配当金

① 配当の基本方針

- 成長戦略への投資資金の確保に留意しつつ、機動的な利益還元と経営・財務の安定性確保の観点から親会社株主に帰属する当期純利益の水準に応じた業績連動型配当を実施。
- 配当方針：2020年度から配当性向を25%以上から『**30%以上**』へ引き上げ。

② 2021年度配当金

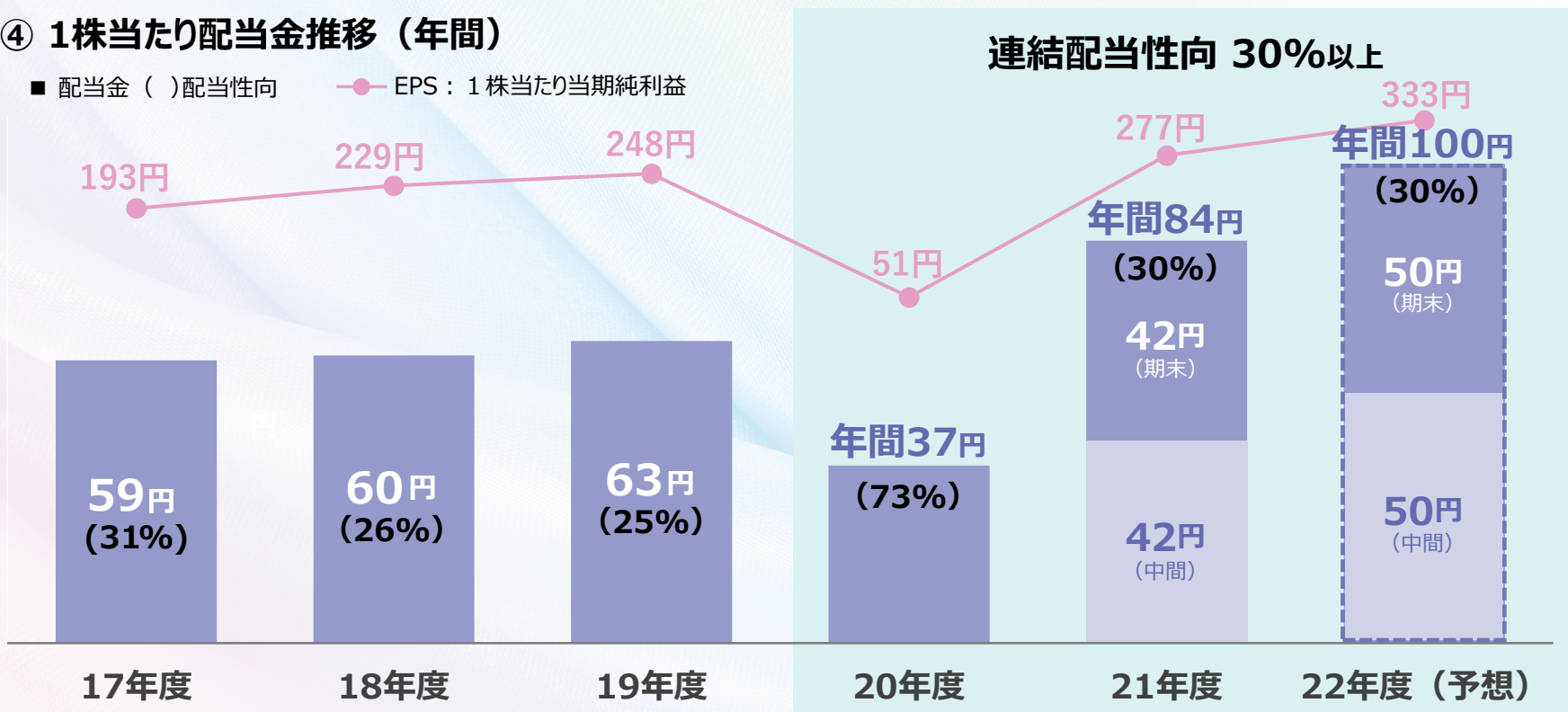
- 期初公表通り中間配当42円、期末配当42円を実施し、年間配当は84円。

③ 2022年度配当予想

- 年間配当予想は16円増配の100円(中間配当50円、期末配当50円)。

④ 1株当たり配当金推移（年間）

■ 配当金 () 配当性向 ● EPS：1株当たり当期純利益



あなたの夢に挑戦します。

蝶理株式会社